

## 副校園長研究会

会長 関田 義博

第 54 回全国国立大学附属学校連盟副校園長会  
研究会、ならびに平成 29 年度日本教育大学協会  
附属学校連絡協議会副校園長分科会が、下記の要  
領で実施された。

### 記

日 時 平成 29 年 10 月 19 日 (木)・20 日 (金)  
場 所 宮崎観光ホテル  
担 当 宮崎大学教育学部附属学校園  
主管校 宮崎大学教育学部附属中学校  
主 題 「これからの公教育を支える附属学校園  
の在り方」  
参加者 会員 214 名 来賓他 16 名

## 1 開会行事

### (1) 開会のことば

全国国立大学附属学校連盟副校園長会  
副会長 飯島 貴子

### (2) あいさつ

全国国立大学附属学校連盟副校園長会  
会長 関田 義博

### (3) 祝辞

宮崎県教育委員会  
教育次長 西田 幸一郎 様  
国立大学法人宮崎大学  
理事・副学長 兒玉 修 様  
全国国立大学附属学校 P T A 連合会  
会長 呉本 啓郎 様

### (4) 閉会のことば

全国国立大学附属学校連盟副校園長会  
副会長 砂原 徹

## 2 文部科学省説明

### (1) 文部科学省説明

文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画  
室室長の柳澤好治氏から、「国立大学附属学校等  
に関する有識者会議報告書について」として、資  
料に基づいた説明が行われた。主な内容は、以下  
の通りである。

- ・「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校  
の改革に関する有識者会議」報告書の要点につ  
いて
- ・有識者会議報告書をどう読むか  
「改革する余地はあるが余裕はない」  
「これまでの延長程度 of 取組では不十分」  
「目に見える改革、成果が必要」  
「まずは己の立ち位置を知る動きを」

## 3 講演

- (1) 演題 「いい子より幸せな子に  
いい大人より素敵な大人に」  
(2) 講師 みやざき中央新聞社・編集長  
水谷 謹人 氏

### (3) 主な内容

- ・宮崎は天孫降臨の地と言われている。建国記  
念の日は神話をもとに設定されていて、天 (天  
照大神) 孫の子孫である神武天皇の即位が 2 月  
1 1 日頃と言われている。
- ・教員には研修が重要で、研修とは研究と修養で  
ある。修養無くして研修は成立しない。
- ・「こんにちは」と「さようなら」は、「あなたの  
今日様はお元気ですか」と「さようならばご機  
嫌よろしゅう」が省略されたもので、「今日様」  
とは心の中の太陽を表す。
- ・人の取組には目標と目的がある。「~のために」  
という目的が重要。教育者は明確な目的意識を  
子どもたちにはぐくみたい。

## 4 校種別分科会

校種別分科会は、以下の通り、それぞれの校種  
が抱える課題、特色ある取組、有識者会議の報告  
等についての協議が行われた。

《幼稚園部会》

部会長 宇都宮大 五十嵐 市郎

研究協議

提案1 「子どもたちの豊かな園生活のために『つながる』『活かす』『輝く』園運営をめざして」

提案者 三重大 杉澤 久美子

提案2 「子どもも保護者も職員もみんなが楽しい幼稚園を目指して」

提案者 奈良教育大 竹内 範子

《小学校部会》

部会長 東京学芸大竹早 彦坂 秀樹

研究協議

提案1 「異年齢交流を活かした教育活動」

提案者 山形大 佐藤 昌彦

提案2 「通常学級に在籍する支援が必要な子どもの成長を願って」

提案者 奈良教育大 中窪 寿弥

提案3 「いじめ予防プログラムと県立高校教育創造コースとの連携」

提案者 香川大坂出 樽本 導和

《中学校部会》

部会長 筑波大 小林 美礼

研究協議

提案1 「創立70周年記念行事」

提案者 東京学芸大小金井 村上 潤

提案2 「附属中学校としての使命」

提案者 富山大 有島 洋之

提案3 「連携」

提案者 愛媛大 渡部 ゆかり

《高等学校部会》

部会長 東京学芸大国際 後藤 貴裕

研究協議

提案1 「本校の沿革と教育活動の特色」

提案者 筑波大駒場 大野 新

提案2 「水泳事故を防ぐ取り組みについて」

提案者 大阪教育大池田 田中 誠一

提案3 「本校の将来構想策定に向けて」

提案者 金沢大 山本 吉次

情報交換

情報1 「各校の基礎データ」

提供者 東京学芸大国際 後藤 貴裕

情報2 「教育実習と教員研修について」

提供者 広島大 砂原 徹

《特別支援学校部会》

部会長 東京学芸大 小金井 俊夫

研究協議Ⅰ

提案1 「地域との連携」

提案者 静岡大 吉田 幸弘

提案2 「愛媛大学教育学部附属特別支援学校における地域貢献・拠点校としての取組」

提案者 愛媛大 渡邊 恵理

研究協議Ⅱ

話題提供 「地域貢献 地域の拠点校としての取組アンケート結果報告」

提供者 東京学芸大 小金井 俊夫

◎ 次期主管校園

次期副校園長研究会の主管校園は、鳴門教育大学附属学校園が務め、事務局を附属小学校が担当する。詳細は下記の通りである。

記

開催日：平成30年10月18日（木）・19日（金）

開催地：徳島県徳島市

会場：JRホテルクレメント徳島

事務局：鳴門教育大学附属学校園

大会実行委員長：鳴門教育大学附属小学校長

安田 哲也